

目指す学校像	～全ては子どもたちのために～「居がい・学びがい・通わせがい」を感じられる学校
--------	--

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実現 2 「心の教育」の充実 3 情報発信・受信体制の強化を核にした「開かれた学校づくり」の推進 4 「教職員の指導力」の向上と「働き方改革」の推進
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価		
年度目標				年度評価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、学力及び質問紙調査とともに、全国・市平均と比べ概ね良好な結果である。また「算数が好き」と答える児童の割合は、「国語が好き」と答える児童の割合より低い傾向がある。 ○市の学力調査では、3・4学年が市の平均を下回る状況があり、特に算数においては、「基礎・基本」の内容の定着に課題が見られる。 ○スタディ・サプリの活用度は全学年80%前後であり、デジタル機器の活用は進んでいる。 (課題) ○「知識・技能」と「思考・判断・表現」とともに向上を図る必要があり、「協同的な学び」や「学習の個別最適化」、「学びの自律化」の具現化に取り組む必要がある。	・「真の学力」の育成につながる、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・「学びの個別最適化」や「学びの自律化」の実現に向けた指導法の工夫改善	①指導と評価の一体化を重視した評価テストを選定する。(学校内で統一) ②市教育研究所の学力向上カウンセラー研修等の活用及び目的を明確にした計画的な学校課題研究を通して、授業力の向上を図る。 ③教科担任ごとや学年内の教材研究の場を設定し、よりよい授業づくりのための組織的な検討を行う。	①市学力学習状況調査の結果が、市の平均を超えることができたか。 ②教職員アンケートにおいて「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が行われている」に対する肯定的意見の割合を90%以上となったか。 ③児童アンケートにおいて「(教科名)が好き」と答える児童の割合を1学期当初→3学期で増加することができたか。 ④各児童が校内の評価テストで「予想平均点×80%」を上回ることができたか。	①ICT 機器等を活用し、児童一人ひとりの学習状況に応じた授業中の支援や家庭学習の課題設定を行う。 ②ブロック学年による打ち合わせの場を設定し、児童の学習履歴に応じた学習手段の個別最適化や学習の自律化について検討の上、実践化を図る。	①児童アンケートにおいて、「学びの個別最適化」及び「学びの自律化」に対し肯定的回答が80%以上となったか。				
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、市平均を上回った。 ○「いじめ見逃し0」をスローガンに、いじめの積極的認知を行っている。令和4年度のいじめ認知件数32件 (課題) ○施設、設備の不具合等を原因としたけがはないが、体育の授業や休み時間等のけがが多い	・「自己指導能力」の向上を目指す生徒指導・教育相談体制の充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた取組の充実	①情報端末を活用して児童向けアンケートや面談等や、生徒指導上の対応記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②生徒指導・教育相談の校内委員会において ICT を活用することで、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に相談、支援、指導を行う。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②学校自己評価に係る児童アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が、90%以上になったか。	①情報端末を活用し、校内におけるけがの発生場所、件数、原因などを分析し、児童と共有できるようにする。 ②課題の解決策について議論する「大宮別所小安全会議(仮称)」を教員と児童(委員会)の協働で開催し、安心安全の目標を児童自ら設定する。	①学校評価に係る児童アンケートに、「以前より安全を考えて行動するようになった。」と回答する児童の割合が90%以上となったか。 ○「大宮別所小安全会議」を開催し、児童が安全な生活の実現に向けて目標を設定し、けがの件数が減少したか。				
3	(現状) ○コミュニティ・スクール4年目である。昨年度までの学校運営協議会において、育みたい児童の力として「他者とのかかわる力」を定めるとともに、更なる取組の充実の観点から、組織の見直し等についても検討を重ねてきた。 ○学校だより等による情報発信や、学校評価等の情報受信を重視したことで、学校評価(保護者)の「開かれた学校づくり」の項目について、95%の肯定的意見をいただいている。 (課題) ○今年度は、新しい学校運営協議会の体制のもと、SSNとの協働体制を強化し、「他者とのかかわる力」の育成に向けた、学校・家庭・地域の連携体制を強化する。 ○情報発信、受信、フィードバック体制の強化	・児童の自律につながる継続的な取組に向けた「大宮別所小コミュニティ・スクール成長プラン(仮称)」の策定と行動 ・意図的・計画的な情報発信、受信、フィードバックの実施	①本校HP内に、新たに学校運営協議会及びSSNの情報を発信するページを作成し、目指す児童の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ②児童の自律につながるコミュニティ・スクールへと成長を図るためのプランを策定する。 ③策定したプランに基づき、具体的な方策を定め、学校とSSNが協働した取り組みを始める	学校評価に係るアンケートで ①「コミュニティ・スクールの一員として、目指す児童の姿を共有できた」と回答する割合が80%以上となったか。 ②「コミュニティ・スクールの取組により他者と関わる力」等について肯定的な回答が80%以上となったか。 ③「学校、家庭、地域が協働し、児童の自律につながる取組が行われている。」と回答する割合が80%以上となる。	①学校だよりや学校安心メール、学校公開等の機会を活用し、事前の丁寧な情報発信や、こまめな学校評価の実施、確実なフィードバックを徹底する	①学校評価に係るアンケートで、「情報発信・受信・フィードバックに関する項目について肯定的な回答が90%以上となったか。				
4	(現状) ○過去3年間、学校課題研究(国語・算数)を中心に指導力向上に努めてきた。 ○昨年度より日課表の見直しを行い、木曜日を短縮日課として放課後の研修の時間を確保した。 ○全教職員のICT機器の一般的活用スキルは高い (課題) ○指導と評価の一体化の徹底が求められている。 ○「協同的な学び」や「学びの個別最適化」等の面で教職員間での格差が課題である。 ○各個人の「仕事の仕方改革」が課題である。	・指導力向上を目的とした研修の実施及び「仕事の仕方改革」の推進	①毎週木曜日の研修の時間を核に、ICT機器の効果的活用を踏まえた校内師範授業や外部講師を招いた研修会、校内授業研修会を計画的に実施する。 ②一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善の目標を設定し、目標達成に向けた授業を2学期末までに1回以上公開する。 ③「見通しをもった業務遂行」の視点から時間外在校時間に基づく面談を通し、一人ひとりの業務改善を促す。	①全教職員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、効果的にICTを活用する状況になったか。 ②すべての教員が、自らの目標に向けて授業改善策に取り組み、結果として80%以上の教員が目標達成を実感することができたか。 ③すべての教職員が自らの目標に向けて業務改善策に取り組み、結果として80%以上の教員が目標達成を実感することができたか。						